

# トンデモ本



まじめに考察された  
スーパーA級の「ト本」

と学会会長

山本弘

やまもと・ひろし 1950年京生まれ。SF作家・ゲームデザイナーとして活躍。著書に「サイラの冒険」など。共著に「トンデモ本の世界」「トンデモ本の逆襲」。

正確にいうと、この5冊はいわゆる「トンデモ本」ではなくて、トンデモ現象やトンデモ症候群といったものについてまじめに考察し、研究した本ということになるでしょうか。

『詐欺とペテンの大百科』は、歴史に残る詐欺事件やペテン師の挿話を大量に集めたもの。一例を挙げると、贗札製造機詐欺などというのがあります。悪人を前に、印刷機に白紙を入れると、出口から本物の札が出てくる。それを何枚か見せて、その機械を高額で売る。初期投資の数枚の札が束になって戻ってくる仕掛けです。あるいは、海水から金を抽出する装置（深夜、装置の中に金箔を貼っておくだけです）とか、架空の競馬レースを仕立てた大規模なノミ屋事件とか、詐欺師の頭の良さを実感させる奇想天外な詐欺事件がたくさんあって、読んでいて飽きません。

『予言がはずれるとき』は、アメリカの社会心理学者3人による、1950年代のUFOカルトについての分析。地球は洪水で滅びるとのお告げを宇宙人から受けた教祖がUFOに助けてもらったことを提唱していた教団

詐欺とペテンの大百科  
予言がはずれるとき  
聖別された肉体  
人間この信じやすきもの  
火星からの侵入

カール・シファキス  
L・フェスティンガー—他  
横山茂雄  
T・ギロビッチ  
H・キャン

青土社 ¥4460  
勁草書房 ¥5000  
白馬書房 ¥3605  
新曜社 ¥2900  
川島書店 ¥2300



「詐欺とペテンの大百科」  
天性の犯罪者の愉快的活躍

に、著者らが潜入し内部から見た姿をレポートしたものの。UFOに乗るための準備や、宇宙人など名乗ってきた人物へ

より強固な組織になつていくなど、興味深い事実が記されています。

「聖別された肉体」は、膨大な資料を駆使してナチズムの根底にあるオカルト思想の源流を探ったもの。これを読むと、アーリア人種優秀説は今も形を変えてそれぞれの民族の中にあるのではないかといった感慨もわき、民族の優秀性を喧伝するとナチヨナリズムに行き着くことにも思い至る。ありがちな。ナチス・オカルト帝国の野望」といった大げさな書き方をしてないのにも好感が持てます。

「人間この信じやすきもの」は、人間がだまされやすく、誤りやすい存在であること

を明らかにしています。超能力研究などでも初期には成功率が高かったものが、管理が厳しくなるのと低くなるのもその一例です。迷信や誤信、根拠薄弱な超能力やシンクス



「うわさ」にご用心  
にウワサが広がるまじない一冊を届ける  
『本の雑誌』2004年10月号

「火星からの侵入」パニック行動に関する古典的名著

などを信じてしまうのは、あつてほしいという期待感が合理的な思考を上回っているからだ」と結論しています。信念とは所有物だ、という主張は新鮮に聞こえます。つまり、信念とは合理性や論理的な思考を捨て去った対価として手に入れることができるというものです。

「火星からの侵入」は、オーソン・ウェルズのラジオ番組「宇宙戦争」の放送脚本も収録し、当事者たちへのインタビューをまとめて研究したもの。火星人が来襲したというドラマが、なぜ現実と信じられたのか。番組が引き起こしたパニックの全体像を分析し、1930年代のアメリカ人の生活と思想を浮かび上がらせています。教育歴が

低いほど信じやすい、という一般的な傾向のほか、大学生の3割近くが信じていた、経済的に豊かな人より貧しい人のほうが信じやすいなど、興味深いデータがあります。